



中東危機緊急支援
ご寄付はこちら



©Nadime Alrozz / INARA
©JEN

レバノンでは3月初旬以降の空爆と紛争、避難命令により、人道危機が深刻化しています。4月17日には停戦が発効しましたが、その後も砲撃や空爆は続いています。国連により、3月2日以降の死者は3,000人近く、けが人は9,200人以上にのぼっています。5月22日現在も、100万人以上の人が避難を余儀なくされていると言われており、そのうち13万人以上は600以上の集団避難所に身を寄せています。レバノン全土で避難民の数は増えており、広範囲にわたる破壊と不安定な治安状況により、人びとは家に帰ることができません。安全に避難できる場所、食糧、保健、水衛生など、多様な基本的ニーズに応える支援が求められています。食糧・燃料価格の高騰、インフラの破壊、市場機能の低下等、複数の要因から、食糧の入手は非常に困難になっています。国連女性機関(UN Women)の報告では、ある女性は家族の食事のために野草を摘むことを余儀なくされている状況もあるということです。人道支援による食糧は、レバノンの多くの家族にとって不可欠となっています。

レバノン 中東危機緊急支援 危機にある人びとに、 明日を生きる糧を

ジェンはレバノンで活動する現地パートナー団体と協働し、厳しい人道危機に直面する人びとに、調理不要で避難先でも食べやすく、栄養豊富な食糧パッケージを配布します。地域の食文化に合った栄養ある食糧をお届けすることは、紛争の影響から大きな不安を抱える人びとの心身の健康を支え、明日を生きる糧となり、人びとの暮らしと地域の安定への土台となります。命を支える緊急支援へ、どうかお力添えをお願いいたします。



©Nadime Alrozz / INARA
©JEN

地元にはヒーローがいる

ジェンは、世界中の全ての人が自分の命を十全に生きられる世界を目指して、緊急事態から自立を支える活動を続けてきた。どこで活動するかをどうやって決めているのか、と問われることがある。被害の大きさなどの緊急度ももちろん判断の基準となるが、限られた人材や資金を有効活用できる状況か、は最も大きな要素の一つだ。例えば、同様に被害が激しかった村が二つあったとして、支援を受けることに前向きで協力的な村とそうでない村があれば、前向きな村を先に支援する。その姿勢の背後にある事情は当然確認するものの、受け入れたくない村に押し入って支援を押し付けることは決してしない。

日本でのジェンの支援の最初の取り組みは、2004年の中越地震。活動開始当時、その集落で活動することを取り持ってくれた方と先日、数年ぶりにお会いした。その方は、ご自身の田んぼも地割れで作付けできないにもかかわらず、皆さんの支援を優先して欲しいと集落の寄り合いにジェンを参加させてくださった。正式に開始を認められたジェンの支援活動は極めて順調に滑り出した。その後、ジェンの活動に参加し家族連れで集落に移住する方が、復興と村おこしを推進し、その甲斐もあって、直に限界集落を脱して『奇跡の集落』と呼ばれるようになった。

様々な支援事業の全ての現場に、中心となって受け入れてくれた方がいた。その一人ひとりがいなければ、ジェンの活動は成果と呼べるものを生み出すことはできなかった。どこの現場に行っても必ず、そうした地域のヒーローがいた。紛争が多発し、希望が持てない気持ちになることも多いが、世界各地で無名のヒーローたちが活躍していることは、確信できる。彼ら彼女らに想いを馳せ、改めて希望をかみしめている。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

普通の暮らしを取り戻そうと努力する人びとを支える ジェンの活動をご支援ください

10%上乘せ寄付! 実施中 BOOK MAGIC 環境月間 応援キャンペーン2026



BOOK MAGIC
詳細はこちら

不要になった本やCD・DVD・おもちゃや家電(調理家電・美容機器など)などを段ボールに詰めて送るだけで、買取金額のすべてがジェンへの寄付になります。さらに6月30日までのキャンペーン期間中はブックオフが買取金額の10%を上乘せ。送料も無料(沖縄・一部離島を除く)です。ぜひこの期間中にご参加ください!

- キャンペーン期間:
2026年6月1日(月)～6月30日(火)
 - 対象品: 本・CD・DVD・ゲームソフトなど
 - 送料: 無料 (沖縄・一部離島を除く)
- ※期間終了後も通常寄付は継続可能です。



JENサポーター(継続寄付)になって 人びとの明日を ともに支えてください



JENサポーター
詳細はこちら

1994年の設立以来、ジェンが一貫して目指してきたこと、それは紛争や貧困のない平和な世界です。ですが、今も世界の紛争は続き、支援を必要とする人びとが数多くいます。たとえば月1,000円のご支援を1年継続いただくと、4人の子どもに就学に必要な文具等の入ったキットを届けられます。継続的なご支援は、平和な世界を築く大きな力となります。ぜひ共に人びとの明日を支えていただければ幸いです。



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。

封筒に記載されている住所について

現在のジェンの所在地は差出人選付先に記載されている住所となります。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。

JEN
Japan Emergency NGO

特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>

NPO JEN

Japan.Emergency.Ngo

@NGO.JEN

@ngo.jen

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



VOICE

モマンダラ地区に
来ていただいた
ジェンのスタッフに
大変感謝しています



ナイームさん
(水・エネルギー局代表
エンジニア・モマンダラ地区)

仕事だけでなく
土地の再建にも
貢献できる喜びを
得ました



サヒールさん
(パキスタンからの帰還民・
モマンダラ地区住民)

行政
担当者

このプロジェクトでは作業の質と持続可能性を確保するためにジェンスタッフを毎日現場を訪れ、私たちの局とも緊密に連携してくれるのでありがたいです。この地区では約3万4,000人が農家、約4,500ヘクタールの土地は小麦や野菜の栽培に使用されています。農地には水が不可欠で、村の反対側には川がありますが、これまで

事業
参加者

以前はパキスタンに住んでいましたが、最近アフガニスタンに帰国しました。私は11人家族で、息子が4人、娘が5人います。私は自分の国を愛しており、国の再建に貢献したいという強い意志があります。家族を養うための仕事や安定した収入源がありません。私たちの地域では失業率が非常に高く、このようなプロジェクトは私のような

人間にとって大きな価値があります。なぜなら、仕事と報酬をもたらすだけでなく、自分たちの土地を建設・改善することに貢献できるという喜びも与えてくれるからです。私は現在賃貸住宅に住んでいるため、状況は厳しいですが、失業を減らし、地域にさらなる雇用を創出する支援を継続いただけたらと願っています。

自然災害が頻発するアフガニスタンでは2024年には17万人以上が洪水で被災しました。2026年も3月下旬から4月初旬にかけて大雨や洪水による被害が発生し、国連の報告では、7万3,300人以上が被災。死傷者や行方不明者も出ています。

ジェンは、食糧不安が深刻なナンガルハル県で、働くことのできる人がいる家庭には灌漑用水路整備と防護壁の建設作業の対価としての食糧を配布する「フード・フォー・ワーク」事業を継続しています。また、妊娠中・授乳中の母親がいる家庭、女性や子どものみの家庭や、障がい

がある方がいる家庭など、働くことが困難な家庭には食糧配布のみを行っています。防護壁は、洪水発生時に農地や住宅地に水が流れ込むのを防ぎます。事業では、防災や災害リスクの削減に関する研修も行います。

ジェンは、2024年の洪水被害が甚大で、多くの人が農業に従事しているモマンダラ地区の村で活動しています。

アフガニスタン「フード・フォー・ワーク」を通じた食糧支援・防災と災害リスク削減事業」

人びとに食と職を、コミュニティの力で大地に水を



安全な水や手洗いに関する啓発セッション(上)
完成した給水ポイント。これにより各家庭のすぐそばで水を得られるように(左)

お二人以外の対象村の住民の方からも、「以前は水汲みに多くの時間と体力を取られ、日々の仕事や農業に支障をきたしていたけれど、今は体の負担が軽くなり、時間も節約でき、家族の健康と生活全般が改善された」「水衛生促進員として最初は住民へのアプローチやセッションの実施に苦労したが、徐々に自信をつけ、コミュニティからの支援を得られるようになった」「促進員として活動できることを誇りに思う」といった声が聞かれました。人びと自身がリーダーとなり、水衛生環境の改善と維持に取り組む中で、戸惑いや困難を乗り越えながら踏み出したその一歩が、コミュニティの一人ひとりにポジティブな変化をもたらしています。

ジェンは人びとが自らの力で厳しい暮らしに変化をもたらせるよう支え、貧困削減へ繋がる礎を築いていきます。

※本事業は、外務省・日本NGO連携無償資金協力「からの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。」

2022年の大洪水で大きな被害を受けたシンド州では、多くの給水施設が破損し、その数は国内全体の7割近くに相当します。中でも最も甚大な被害を受けたカイルプール郡では、人口の4割が安全な飲み水にアクセスできず、9割は排便後に石けんで手を洗う習慣を持たないなど、水を原因とする病気にかかるリスクが高い状況です。石けんでの手洗いが定着していないのは、そうした習慣の重要性が十分に認識されてい

いたためです。このような課題に取り組むため、ジェンはカイルプール郡で、給水施設の整備を必要とし、水を原因とした病気の発生率も高い5ヶ村を対象に事業を実施。給水施設を洪水に備えた形で整備し、地域住民によるグループが施設の維持管理を行えるよう研修を行いました。さらに地域住民が主体となり、石けんでの手洗いなど基本的な衛生知識を身に付けるための水衛生促進キャンペーンを実施しました。

パキスタン「シンド州・水と衛生環境の改善事業」

戸惑いや困難を乗り越え、人びとの自信と誇りを育む

水衛生促進キャンペーン

施設の維持管理や会計管理などを担う住民組織「飲料水協会」は、地域住民との対話を通じて特定した代表者で構成され、ジェンとともに水衛生キャンペーンを行う水衛生促進員も各村から男女1名ずつ特定します。対象村の水衛生促進員アッバスさんと、キャンペーンに参加したマジッドさんの声を以下に紹介します。

計画通りに施設が完成し嬉しく思っています
●水衛生促進員
アッバスさん(タロマハル村)

インタビューに答えるアッバスさん(左)

接し方のおかげで自信を持てるようになり、活動に積極的に参加することができました。プロジェクトが終わると皆日々の生活に追われ、衛生習慣がおろそかになってしまうのではないかと心配していますが、完了した後も定期的な啓発活動を続けていくことが大切だと思っています。



熱心に語るマジッドさん(左)

セッションを通して新しい気づきがまだまだあると実感しました

●水衛生促進キャンペーン参加者
マジッドさん(タロマハル村の住民)

パキスタン

ドキュメンタリー動画上映会を開催します！

2022年の大洪水で、国土の3分の1が浸水する程の被害を受けたパキスタン。シンド州・ダッド郡で、ジェンは食糧、農業、教育の各分野で支援事業を行ってきました。人びとは洪水の被害からどのように立ち上がろうとしているのか――。ジェンの支援現場で、厳しい状況の中でも前を見ようとする人びとの歩みや暮らし、そのまなざしを丁寧に切り取った約40分のドキュメンタリー映像を初公開します。ぜひご参加ください！



©WORLD FESTIVAL Inc. Yuki Kondo / ©JEN

〈ドキュメンタリー動画上映会&トーク〉
日時：6月30日(火) 18:30開場 19:00開演
場所：SCC千駄ヶ谷コミュニティセンター

お申し込みはこちら

